

**平成26～29年度＜4年間＞
樽ヶ橋エリア活性化実施計画
進捗状況報告（最終）**

平成30年3月23日現在

樽ヶ橋エリア入込客数実績(過去5年間)

1の位切上

観光地点名	現状値	入込客数(実績値)			
	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
たるが橋観光交流センター	36,810	44,050	57,050	51,450	50,000
樽ヶ橋遊園	31,830	27,810	37,530	32,830	32,930
黒川郷土文化伝習館	2,880	3,210	3,040	3,510	3,610
胎内市美術館				5,070	5,600
クアハウスたいない	132,000	134,440	132,560	106,520	101,460
越後胎内観音	22,030	21,750	21,940	21,340	20,700
櫛形山ハイキング	7,830	8,670	8,700	8,220	6,970
有楽荘(たるが橋里山食堂)					7,450
シンクルトン記念館	2,570	2,210	2,070	2,140	3,920
樽ヶ橋エリア合計	235,950	242,140	262,890	231,080	232,640

※H29年度は1月末時点での見込み

返地事業債を活用した樽ヶ橋エリアの改修工事等の実施状況(～H29年度まで)

○実施済み

観光地点名	工事・委託名	実施状況	
		H28	H29
たるが橋観光交流センター	駐車場整備工事		○
	樽ヶ橋公園園路整備工事		○
樽ヶ橋遊園	樽ヶ橋遊園整備工事設計委託		○
	大型複合遊具設置工事		○
クアハウスたいない	空調・貯湯槽・ポンプ設備等改修工事設計業務委託		○
	蒸気ボイラー改修工事		○
たるが橋里山食堂	設計管理業務委託	○	
	改修工事	○	
樽ヶ橋駐車場(有楽荘前)	駐車場舗装工事		○

(1)たるが橋観光交流センター

区分	具体的な展開策			実施年度				計画の変更内容	H29年度結果 (H30年1月末時点)	最終評価・分析	実施担当
	NO.	名称	内容	H26	H27	H28	H29				
① 営業・販売	a	道の駅の名物や軽食メニューを増やす	・樽ヶ橋エリア訪問者への飲食の案内に関しては胎内リゾートなどへ誘導するほか、土日祝日限定の「道の駅の名物」や「軽食メニュー」を増やす。→				【当初計画：H26～H29】 H29年度より、樽ヶ橋エリア内に食堂がオープンすることから、軽食類の提供をH28年度で止めた。	・H28年度まで、たるが橋カレー、豚丼、焼きおにぎり、豚汁の提供を土日祝限定で行った。 ・樽ヶ橋エリアの食堂は、たるが橋里山食堂に一本化した。	たるが橋里山食堂の一本化	胎内市観光協会
		軽食類の販売休止	H29年度にたるが橋里山食堂(有楽荘内)がオープンすることから、軽食類の提供を止める。				→				
	b	取扱特産品の種類の充実	・特産品の種類を充実させ、それらを利用した観光PRを実施する。 ・酒類販売免許を新たに取得し、胎内産ワイン・ビールの販売を行う。	→				・胎内市のPRに繋がるものは引き続き調査・検討し充実を図る。 ・酒類販売免許を登記変更完了と共に取得し、H29.7より酒類販売を開始(胎内高原ビール、胎内ワインのみ販売)した。	取扱特産品の種類に充実を図った。		
	c	体験ツアー・着地型ツアーの実施	・旅行者者と提携し、体験ツアーや着地型ツアーを実施する。	→				・阿賀北ガールへの参加(新発田地域振興局主催)や地域の方々と話し合いながらツアーの企画を立て、H30.3に「胎内市観光ルート海編」としてツアーを計画した。	樽ヶ橋エリアのみならず、市内観光地を周遊する体験ツアーや着地型ツアーを充実させ、胎内市への誘客を拡大した。	胎内市 胎内市観光協会	
	d	エリアの案内板やパンフレットの作成	・エリア全体の概要が分かる案内板やパンフレットを作成する。	→				・トイレ入口への道路情報掲示、道の駅・観光情報をトイレ内に設置し観光案内等の充実を図り、PC検索においても外国語対応HPに更新した。	エリアを訪れる来場者がスムーズに利用できる導線の整備を行い、HP「胎内観光NAVI」をインバウンド対応に更新した。		
e	胎内川のアユ・サケのPRと活用	・胎内川のアユやサケのPR及びこれらを活用したイベント等を行う。	→				胎内川漁業協同組合への取材と時節の話題としてSNSでの情報発信を行った。	SNS等での発信情報量の不足	胎内市観光協会 胎内川漁業協同組合		
② 人材	a	観光協会の人員体制・人材育成強化	・観光情報の発信やPR活動ができる観光協会の人員体制及び人材育成の強化を図る。	→				H29.11インバウンドに関する基礎知識として研修会を実施した。協会内で日々の申し送りをノートを活用し伝達事項の漏れを防止した。	今後も引き続き研修会、講習会等への参加報告会を通し人材の育成に努め観光交流センターとしての情報発信向上していく必要がある。	胎内市観光協会	
	b	観光ボランティアガイドの人材育成	・胎内市を案内する観光ボランティアガイドの人材育成を行う。	→				市役所商工観光課と連携しながらガイド研修会を行っている。		胎内市 胎内市観光協会	
③ 施設	a	電気自動車用充電設備の整備	・道の駅としてのサービス向上を図るため、電気自動車用充電設備を整備する。		→	【新規計画：H28～】 H28年度に道の駅としてのサービス向上を図るため計画し整備した。	H29年3月より運用を開始し、H29年度の利用実績は(2月末時点)312件であった。	道の駅としての機能が充実した。	胎内市 胎内市観光協会	

(2) 樽ヶ橋遊園

区分	具体的な展開策			実施年度				計画の変更内容	H29年度結果 (H30年1月末時点)	最終評価・分析	実施担当
	NO.	名称	内容	H26	H27	H28	H29				
① 営業・販売	a	周辺施設と連携による団体客の獲得	・ホテルやアウレツ館と連携し、動物とのふれあいを中心とした「見る」・「聞く」・「触れる」の体験型プランの提供・実施		—————→				・団体客誘客のため、近隣の保育園・小学校や宿泊施設などへ80件のDMを行い20件の団体利用があった。H30年度の営業用DMを80→370に増やし広域に宣伝した。	近隣の施設と連携し誘客に繋げることは出来なかったが、保育園や小学校などの団体客への誘客を行うことが出来た。今後は冬季前の早い時期から営業活動に努める。	
	b	ガイド説明による付加価値の向上	・今までの「ご自由にご覧ください」から、希望する団体(特に保育園など)には、園内職員による動物のガイド説明を行い、「楽しむ」に「学ぶ」をプラスしたサービス向上の検討・実施		—————→				・20団体のうち希望する胎内市1、市外5、計6団体に動物ガイド説明を行ったほか、園内池にザリガニやメダカの放流体験を地元保育園児と行った	今後も引き続き、希望する団体に動物ガイドを実施し、サービス向上とリピーター獲得を目指す。	
	c	新規目玉動物の導入	・H23年4月にアルパカを導入し、雑誌やマスコミ等に取り上げられた効果もあり、新潟県内には認知されてきた。今後さらに誘客につながる目玉となる動物の導入の検討を行う。		—————→				・基本方針である「見るだけでなく、動物たりと触れ合える動物園」を充実させるため、小動物ふれあいコーナーにフェレット4匹をH30.3導入した。	見る・聞く・触れ合える動物園は県内でも貴重であり、樽ヶ橋遊園の動物ふれあいコーナーが認知されてきた。	
	d	冬季営業の検討	・胎内リゾート各施設のモデルケースとして、冬期営業を具現化するための方策を検討する。		—————→				・現時点では冬季の営業は困難	冬季営業を検討し実施するが出来なかった。	
② 施設	a	新たな遊具の整備	・幼児が安心して遊べ、ターゲットとなるファミリー層の誘客につながる大型遊具の新規導入を検討		—————→				・辺地債を活用してH29.11大型遊具を園内中央の芝生広場に設置した。	辺地債を活用して大型遊具を設置したことで新たな人気スポットが誕生した。今後の家族連れや保育園の団体利用の誘客及び満足度の向上に大いに期待が持てる。	
	b	テニスコートスペースの活用方法の検討	・現在、使用していないテニスコートスペースの有効活用を検討		—————→				・H30年度以降の樽ヶ橋遊園整備に係る基本設計を委託し、H30年度テニスコート用地に屋根付休憩施設の設置を計画した。	辺地債を活用しH30年度に屋根付休憩施設を設置し、H31年度より運用を予定している。今後は利便性の高い新たな園内の施設として、有効活用の期待が持てる。	胎内市
	h	屋内休憩所の整備	・日よけ・雨天時などに活用できる屋内休憩所を新設する。		●●●→			【新規計画：H29～H30】	辺地債を活用した整備を新たに計画した。		
	c	空き地スペースの活用	・旧迷路用地の空き地スペースの活用を検討する。		—————→				・砂遊び場を新設し周辺花壇の整備を行った。	ボランティアの方々や周辺花壇の景観整備を行ったが砂遊び場を利用者する人は少なかった	
	d	園内看板の整備	・飼育している動物の檻に、名称・特徴など統一した表示看板を設置する。		—————→				・各動物の名称・特徴を明記した看板のほか、園内の自然散策を案内する看板を設置した。	園内全体の看板等については、今後の施設改修計画(サイン計画)の中で検討し来園者が利用しやすい施設を目指す必要がある。	
	e	計画的な施設改修	・老朽化に伴う施設の改修について、維持補修計画に基づき、順次計画的に実行する。		—————→				・管理棟・動物舎の塗装及び修繕、既存水路の再活用等を実施した。	既存施設の水路等を再活用し園内の景観を整備することが出来た。	
	f	藤だな・やまぼうしの活用	・園内の藤だな・やまぼうしを再整備し、活用する。		—————→				・市民ボランティアとともに園内の藤だな・やまぼうしの整備を継続的に実施した。	今後も引き続き継続して整備を実施する必要がある。	
	g	第2入園口の整備	・第2駐車場側の入園口の整備を検討する		●●●●●●●→			【当初計画：H26～H29】	必要性が低いためH29年度から計画を廃止した。	・現時点では必要性が低いため、整備は実施しなかった。	必要に応じて今後検討する。
③ 人材	a	ガイド説明スタッフの育成	・園内の動物ガイド説明も行える人材の育成(観光協会の観光ボランティアガイド人材育成と連携)		—————→				飼育員による動物ガイド説明を実施し経験を積む。/動物のガイドの他にも園内の植栽やビオトープの説明など施設全体のガイド説明を行った。	今後は動物以外にも園内の自然散策や樽ヶ橋エリア全体の情報発信できる人材育成を目指す。	胎内市 胎内市観光協会

(3) 黒川郷土文化伝習館

区分	具体的な展開策			実施年度				計画の変更内容	H29年度結果 (H30年1月末時点)	最終評価・分析	実施担当
	NO.	名称	内容	H26	H27	H28	H29				
① プログラム	a	新たなプログラム(見学・体験)の開発	・胎内リゾート内の文化財・遺跡を紹介するツアーの開催 ・鳥坂城～黒川城登山体験の中間拠点として登山計画 ・子供から大人まで気軽に楽しめる体験プログラム(縄文火起こし・弓矢体験・まが玉づくり・紙づくりなど)の実施						・黒川城、蔵王山(親子・PTA登山、ふるさと体験学習)などの体験登山の定着化 ・市外小学校対象のわらじ作り体験教室。 ・子ども向け民具体験シートの更新(わらじづくりシートの追加) ・テーマ別スライド(羽越水害50年事業など)の作成。出前講座の開催。 ・H29年度美術館事業と連携したイベントの実施	【目標】30団体中【結果】29団体であった。一定の効果はあったので、今後は体験内容の周知に力を入れたい。	胎内市
	b	企画展の開催、展示替えの実施	・市民の方々、来客者の意見を取り入れながら実施						・市民から寄贈された民具(黒川伊藤家資料)の展示、公開 ・H29年度は隣接する胎内市美術館と連携企画展を実施(胎内市名品展等) ・民具体験コーナーの充実(新寄贈民具、胎内ゆかりの民具体験コーナー) ・こげコーナーの展示替え	寄贈資料の企画展示を中心に実施した。	
	c	胎内市の文化財・遺跡を紹介するツアーの実施	・樽ヶ橋エリアを含めた胎内市全域の文化財・遺跡を紹介するツアーを実施する。(観光ボランティアガイドとも連携する)						・蔵王山登山(クマ出没で中止) ・太古のロマン大波石ウォーキング(7月) ・米沢街道、大櫓を歩く(9月) ・會津八一歌碑巡り(参加者少なく中止) ・黒川氏の軌跡をたどる(黒川城、黒川館跡、家臣団居館跡等)(11月)		胎内市 胎内市観光協会
	d	体験プログラムの更なるPR	・現在、実施中の体験プログラム(縄文火起こし・弓矢体験・まが玉づくりなど)の更なるPRと、樽ヶ橋遊園の空きスペースの活用(伝習館の縄文体験コースの一部取り込み、縄文式住居の建設など)						・市内小中学校への体験プログラム資料の配布 ・雑誌、書籍等での施設の体験内容の紹介	一定の効果はあったので、今後も更新していきたい。	
② 施設	a	胎内市の歴史文化を発信基地としての認知度の向上	・胎内市の通史、偉人などを紹介する展示の充実 ・資料増加に伴う施設増築の検討						・NHK等で体験学習の紹介 ・県内、県外博物館等への出展(縄文時代漆製品) ・市報がない「胎内市の歴史探訪」での紹介		胎内市
	b	文化財総合案内看板の設置	・樽ヶ橋エリアの文化財(黒川城含む)を案内する総合案内看板の設置						・隣接する美術館サインと併せた看板を制作。		
③ 人材	a	解説や指導を行う市民の育成と確保	・施設ボランティアや友的な組織づくりの模索(観光協会の観光ボランティアガイド人材育成と連携)						・市民を対象にした観光ボランティアガイド育成事業を実施予定。 ・隣接する美術館と併せて、サポーターズ倶楽部を設立したので、わらじづくり教室などのイベント、草刈整備、ガイド育成講座等、様々な事業を展開した。	組織的に機能してきている。	胎内市 胎内市観光協会

(4)胎内市美術館

区分	具体的な展開策			実施年度				計画の変更内容	H29年度結果 (H30年1月末時点)	最終評価・分析	実施担当
	NO.	名称	内容	H26	H27	H28	H29				
① プログラム	a	樽ヶ橋エリア内の観光施設、文化施設、自然資源等との連携	・隣接する黒川郷土文化伝習館など市内文化施設との連携活用、観光イベントとの連携活用		→		【新規計画：H28～H29】 H28～のオープンにより新たに計画した。	・樽ヶ橋バードウォッチング5/13(鳥の図鑑展 5/10～5/14)を実施 ・黒川郷土文化伝習館の民具体験とあわせて美術館作品鑑賞の実施	平成29年度の来館者は【目標】4,600人【結果】5,600人(H30.1末時点での見込み)であった。胎内市ゆかりの芸術家、テーマなどを中心に展示会を実施し、プログラム・PR等で一定の効果はあったので、今後も更新していきたい。	胎内市 胎内市観光協会
	b	地域に密着、貢献した企画展の開催、展示替等の実施	・市所有の古代から現在までの美術品を市民に紹介する企画展示 ・近隣美術館との巡回展の開催 ・郷土ゆかりの作家作品を中心に、胎内市ならではの展示 ・胎内市の隠れた名品展の実施(個人所有の美術品の調査、リストの作成) ・市民アートギャラリー等による芸術文化の発信 ・ミニコンサートの実施、講習会、講演会の開催 ・障がい者も健常者も楽しめる展示の検討 ・企画展年4回・常設展年3回入れ替えを予定		→		〃	・春の特別展「本間正英日本画展」4/45～7/23 ・夏の特別展「會津八一遺墨展」8/5～9/24 ・秋の特別展「高橋与兵衛写真展」10/7～12/27 ・冬の特別展「県展・芸展作家展」1/13～3/18「胎内市名品展」 ※市民ギャラリー 本間正英日本画教室作品展、写真展「新潟の四季」、写真展「胎内市の石造物」、現代作家作品展		
	c	胎内市の美術作品を紹介するツアーの実施	・樽ヶ橋エリアを含めた胎内市所在の美術作品を紹介するツアーの実施。(友の会・サポーターズクラブ・観光ボランティアガイドと連携して)		→		〃	・會津八一歌碑めぐりと老舗ランチツアー 9/10 参加者少数で中止		
	d	アート体験プログラムのPR	・学校等への図工、美術授業、社会科見学、遠足などでの利用促進PR ・実施予定のアート体験プログラム(木工・版画・ハンドクラフトなど)のPRと、隣接する黒川郷土文化伝習館体験と連携した豊富な体験コースのPR。胎内の自然の中で実施するアートキャンプのPR。 ・新潟県博物館協議会に加盟し、県内美術館でのPR実施。		→		〃	・レザークラフト、ストリングアート体験、海の生き物をデザインする、フィンランドのおまもり「HINMWRI」づくり、年賀状・クリスマスカードづくり、ハロウィンランタンづくり、つるし雛づくり、まが玉づくりなどを広報、新潟日報等でPRした。		
	e	芸術作家の育成、学校美術担当教員による研究	・郷土から芸術家を誕生させるための支援 ・学校の美術担当教員向けの展示美術品説明		→		〃	・市内、市外小中学校美術担当職員との研究会、説明会の開催 ・ジュエリーデザイン教室の開催 9/12～13・16		
② 施設	a	施設前庭、周辺環境の整備	・入りやすいアプローチ(芝生・植樹・花壇・ベンチ等の設置)		→		〃	・胎内市美術館サポーターズ倶楽部の協力により前庭、周辺環境整備の整備。施設窓ガラス拭き。花壇の整備等。	計画的に実施できた。	胎内市
	b	展示収蔵室の維持管理	・展示室、収蔵庫の管理徹底		→		〃	・二酸化炭素消火器の追加設置。絵画収納箱の追加。		
	c	美術館案内看板の設置	・樽ヶ橋エリアへの導線に誘導案内看板を設置		→		〃	・国道7号線追分付近に看板の設置。入り口にタペストリーを作成。		
③ 人材	a	解説や指導を行う市民の育成と確保	・施設ボランティア(サポーターズクラブ)や友の会などの組織づくり(観光ボランティアガイド育成と連携)		→		〃	・胎内市美術館サポーターズ倶楽部で定例会を開催し、人材の育成事業を実施。	組織的に機能してきている。	胎内市 胎内市観光協会

(5)クアハウスたいない

区分	具体的な展開策			実施年度				計画の変更内容	H29年度結果 (H30年1月末時点)	最終評価・分析	実施担当
	NO.	名称	内容	H26	H27	H28	H29				
① 営業・販売	a	胎内リゾート産の加工品等のPRおよび販売	・胎内リゾート産の加工品等のPRおよび販売						・胎内ジャージー牛乳・ヨーグルト・ハム等の販売を実施	ロビーのレイアウトの変更や新たに販売用ショーケースの設置等も行ったが売れ行きはまいちであった。今後は胎内リゾートに特化せず胎内産加工品の販売拡大が必要。	指定管理者
	b	胎内リゾート施設利用者へ、クアハウスたいない利用割引サービス	・クアハウスたいないを利用した方へ胎内リゾート施設の割引利用券等の発行を検討						・各割引サービスを継続して実施 (楡形山開き登山・トレッキングツアー参加者：入浴料100円引、胎内市観光大使やらにゃん割引：入浴300円引・小学生無料、SD・エコカード各100円引、胎内リゾート施設入館割引等) ・クアハウス割引キャンペーンとして毎月7の付く日と11日、大人700円 ・毎月第2土曜日ファミリーDay(中学生以上1名700円、小学生2名まで無料) ・5月5日子供の日 ⇒ 小学生プール利用入館料 350円 新規：H29年度より夏休み子供会員券の発行	胎内リゾートと連携した施設利用割引はアピール不足であった。各利用割引についても今後はさらに積極的な利用を推進と新規企画の検討が必要。	
	c	新規企画の実施	・登山コースの整備と同時に、各施設と連携した集客対策を検討・実施する。 (各種トレッキングツアーの企画検討等)								
	d	新たな観光客や新規会員の誘客対策	・利用客の内8割が会員なので、ファミリーで過ごせるレジャー施設として新たな観光客や新規会員の誘客対策を検討する。(エリア内での共通利用割引券等の検討)						・ポイントカードの導入 ・法人向け体験優待券の配布		
	e	民間活力の利用	・指定管理者制度等民間活力を利用した運営を行う。						・H22年度から指定管理制度を導入 ・H27年度にして管理期間1年更新 ・H29年度より指定管理期間5年間更新	民間活力を利用した運営を図る。	胎内市
	f	利用料金の適正化	・利用料金の適正化を検討する。						・H27年4月から長期会員制度の廃止と短期会員料金の改正を実施 ・H29年度から会員入会及び会員更新時に優待券を1カ月に1枚進呈 ・夏休み子供会員(限定一ヵ月)の実施(一ヵ月3,000円)	引き続き、利用料金の適正化を検討していく必要がある。	胎内市 指定管理者
② 施設・コース	a	(胎内リゾート利用者へ)レジャーおよびレストスペースの推進	・施設の性質および設備面から、全面的に『日帰り温泉』と打ち出すには少々無理がある。しかし、家族と一緒に温泉につかり過ごせるパーデゾーンやウォータースライダーがあり、レジャーおよびレストスペースとして利用促進を目指す。						・トレーニングルームの活用、毎週火曜日にヨガ教室、毎週木曜日にバレエ教室を実施	GWや夏休みの繁忙期の目玉企画や新たなサークル活動の受入や利用方法の検討など、施設の利用推進が必要。	指定管理者
	b	計画的な施設改修	・老朽化に伴う施設の改修について、維持補修計画に基づき、順次計画的に実行する。						・維持補修計画に基づき、順次計画的に実施 ・H29年度から辺地債を活用した施設の改修を計画し、基本設計を業者に委託	引き続き、計画的に修繕・改修工事を実施する。	胎内市
③ 人材	a	胎内リゾートへのコンシェルジュ機能を向上	・お客様から「この辺で食事ができる所はないか？」との問い合わせが多い。そのような場合に胎内リゾート内の飲食施設等を案内するように誘引セールスしたい。また、胎内リゾート各施設観光する『周遊マップ』等のような物もあれば、積極的な情報発信も可能となる。						・胎内リゾート各施設の観光情報・催し等の案内ポスターを館内に掲示 ・H29年度より、飲食店の情報は「たるが橋里山食堂」を中心に案内	胎内リゾート関係の利用者からの質問等に対応(案内)できるスタッフ教育を実施し両エリアの誘客につなげる。	指定管理者

(6)越後胎内観音

区分	具体的な展開策			実施年度				計画の変更内容	H29年度結果 (H30年1月末時点)	最終評価・分析	実施担当
	NO.	名称	内容	H26	H27	H28	H29				
① P R	a	パワースポットとしての情報発信	・パワースポットや後利益などの観光的要素を盛り込みながら情報発信する。						・胎内市観光協会と協力してHPやSNS等で情報を発信	引き続きパワースポットとしての情報発信及び歴史文化財としてのPRを実施していく。	越後胎内観音奉賛会 胎内市観光協会
	b	歴史文化財としてPR	・昭和42年の羽越水害の殉難者の冥福と災害復興等を祈って建立された歴史的経緯を鑑み、歴史文化財と位置づけてPRを行う。						・観光交流センターにおいて、歴史的経緯を鑑みて説明・案内を実施 ・春と秋の例祭・8/28に大祭を実施		
② 施設	a	敷地内の整備	・現在使用していない売店建物について、民間事業者の運営による有効活用を図る。(飲食の提供等)改装等の必要な整備は、民間事業者の資金により行う。						・売店建物での営業(利用)を希望する事業者を探している(継続中)。		越後胎内観音奉賛会

(7)楡形山脈・蔵王山塊

区分	具体的な展開策			実施年度				計画の変更内容	H29年度結果 (H30年1月末時点)	最終評価・分析	実施担当
	NO.	名称	内容	H26	H27	H28	H29				
① 整備	a	蔵王山塊と楡形山脈の登山ルートを活用	・蔵王山脈・蔵王山塊や楡形山脈を散策するツアーを実施する。(黒川城に関する史跡をコースに含む)						5月21日(日)蔵王山トレッキングツアーを実施(参加者:10名) 6月4日(日)楡形山トレッキングツアー1回目を実施(参加者:19名) 10月29日(日)楡形山トレッキングツアー2回目を実施(参加者:10名) 参加者合計:39名	各イベントを開催してきたが参加者が少なかったことに伴い、様々なアイデアを出しながら「日本一小さい山脈」の楡形山脈をよりPRしていく必要がある。	胎内市 胎内市観光協会
	b	樽ヶ橋を拠点とした周回コースの整備	・樽ヶ橋を拠点とした周回コース(観音コース～黒中コース)を整備する。						未貸付登山道(鳥坂山・飯角山・黒中山)3コースを森林管理署に貸付申請した。	今後も登山者の安全を確保すべく整備をしていく。	胎内市
	c	絶景ポイントと看板等の整備	・絶景ポイントの確保や看板・ベンチ等の整備と活用を進める。						ハード整備 ソフト事業	ハード整備では、県の楡形山脈整備事業により、新発田市を含む楡形山脈の縦走路の主要箇所、ベンチ・安全ロープ設置の整備を実施した。 ソフト事業では、外国語(英語)に対応した楡形山脈登山道ルートマップを主要登山道入口に設置した。	関係する国・県・市町村と協働しながら整備計画をたてる。

(8) 樽ヶ橋河川公園

区分	具体的な展開策			実施年度				計画の変更内容	H29年度結果 (H30年1月末時点)	最終評価・分析	実施担当
	NO.	名称	内容	H26	H27	H28	H29				
① 活用	a	イベントの開催	・樽ヶ橋エリアの周辺施設や胎内リゾートエリアと連携したイベント(胎内川新緑まつり)を開催する。	—————▶					・周辺施設と連携して交流センターと河川公園を会場に、春のパンまつり(4月)、GWイベント、楕形ウイインドトレイルのスタート&ゴール会場(5月)、胎内川新緑まつり(6月)を開催し、河川公園の利用促進を図った。	・河川公園へ通じる通路の整備と併設して水洗設備が整備されたことから、イベントやバーベキューなどでの利便性が向上した。今後は河川公園の有効な利用について、積極的なPRと利用満足度の向上に期待ができる。	胎内市観光協会
	b	健康ウォーキングコースでの利用	・健康ウォーキングコースとしての利用を推進する。	—————▶					・GWイベントにおいて、河川公園を利用したタイムレースを実施した。 ・河川公園をヨガ教室の会場として利用している。		
② 施設	a	バーベキュー広場・レクリエーション設備の導入	・イベント以外の通年の活用策を検討する。(バーベキュー広場、簡易レクリエーション設備の導入)	—————▶					・バーベキュー広場として活用してもらうため、交流センターでカセットコンロや大鍋などの貸し出しを実施している。 ・団体・グループの河川公園利用の問合せについては、物販棟の厨房などの利用で対応している。	・河川公園へ通じる通路の整備と併設して水洗設備が整備されたことから、イベントやバーベキューなどでの利便性が向上した。今後は河川公園の有効な利用について、積極的なPRと利用満足度の向上に期待ができる。	胎内市観光協会
	b	公園への動線の検討	・河川公園への出入りにおける、エリア内の動線を検討する。 ・観光交流センター駐車場から河川公園に通じる階段通路を整備する。	-----▶				【当初計画：H27～H29】 H29年度に階段通路を整備する計画に変更した。	・観光交流センターから河川公園への案内看板などを簡易的に作成し対応した。 ・辺地債を活用して、観光交流センター駐車場から河川公園に通じる階段通路と水洗設備を整備した。		

(9)有楽荘(たるが橋 里山食堂)

区分	具体的な展開策			実施年度				計画の変更内容	H29年度結果 (H30年1月末時点)	最終評価・分析	実施担当
	NO.	名称	内容	H26	H27	H28	H29				
①施設	a	食堂施設の運営	・施設を改修して施設内に食堂を新設し、樽ヶ橋エリアへの来場者等が食事できる施設として運営する。				→	【新規計画:H29~】 H29~のオープンにより新たに計画した。	・お客様より建物の形状や立地から「食堂として認知できない」との声を多く頂いた。	お客様より食堂としての認知が出来ないとの声が多く、看板やのぼりを有効的に使用し認知につなげる必要がある。	胎内市 指定管理者
	b	飲食の提供	・胎内産の食材を取り入れたメニューを提供する。				→				

(10)その他

区分	具体的な展開策			実施年度				計画の変更内容	H29年度結果 (H30年1月末時点)	最終評価・分析	実施担当
	NO.	名称	内容	H26	H27	H28	H29				
①活用	a	フルーツパーク・シンクルトン記念館等周辺施設との連携	・フルーツパーク、シンクルトン記念館・石油公園、土地改良区の施設・公園などの施設をエリアの観光施設・観光スポットとして組み入れ、施設間の連携を強化し、誘客に努めていく。				→		・観光交流センターから河川公園への案内看板などを簡易的に作成し対応した。	エリア周辺の施設との連携を強化し誘客する効果が低かった。	胎内市 胎内市観光協会
	b	馬頭観音のPR	・下赤谷の鳥坂神社(馬頭観音)の歴史をPRする。				→		・観光交流センターで適宜PRを行い、ポスターを作成 ・ボランティアガイドによるガイドツアーを実施	シャングシャング馬の祭りを復活させた。年々参加者が増加している。	胎内市観光協会
②施設・整備	a	エリア来場者向けのトイレの設備	・樽ヶ橋エリア来場者向けのバリアフリー対応トイレを胎内市美術館に併設して設置する。(但し、国・県等の補助事業を活用する)				→		・胎内市美術館の建設に合わせて美術館内に整備し、H28年4月より供用を開始	樽ヶ橋エリア駐車場に24h対応のトイレを設備できた。	胎内市
	b	有楽荘の活用	・有楽荘を団体客向けの休憩施設として活用する。				→		【当初計画:H27~H29】 H29年度より「たるが橋里山食堂」として営業を開始した。	H29年度より「たるが橋里山食堂」の営業を開始した。	胎内市 胎内市観光協会
	c	藤の整備	・樽ヶ橋周辺に藤を整備する。				→		・樽ヶ橋遊園内の藤棚の整備を実施(枝の剪定などをボランティアの方々と一緒に継続して行っている)	かつて藤の名所で知られた樽ヶ橋の藤の景観を保持するため、今後も継続的に藤棚の整備を実施して行く必要がある。	胎内市
	d	花ロードの整備	・河川公園から樽ヶ橋遊園にかけて遊歩道に花を植え、「花ロード」として整備する。				→		・河川公園上の堤防道路沿いにボランティアの方々やスイセンを植栽(H26、H28、H29に計3回実施)	・河川公園上の堤防道路沿いに花(スイセン)を植栽した。	胎内市